



## 製鉄記念室蘭病院

# 水難救助の注意点は

## 各消防署の救命士ら学ぶ

製鉄記念室蘭病院で7日、本年度第1回の救急症例検討会が開かれた。4月に室蘭市消防本部に水難救助隊が発足したことを受け、同病院の高井伸幸医師が、水難救助活動の注意点などを講演した。（権藤泉）

### 「潜水器材も病院に持ち込んで」

同院の医師のほか室蘭、登別、西胆振、白老の各消防署の救命士ら約60人が参加した。高井医師は、今春まで勤務した千葉大付属病院救急部での水難救助の実例を挙げながら、「水難事故では助けた時に無症状でも後から症状が出ることもある。高圧酸素療法の

できる病院へ運ぶこと」「事故の状況を正確に把握できるように、ダイビング器材なども病院に持ち込んで」などと話した。このほか、各消防署が対応した救急症例を発表。2004年から救命士も実施できるようになった気管挿管などについて意見を交わした。

水難救助の注意点を学ぶ救命士ら